



四日市市立大矢知興譲小学校
校長だより 12号 R8.8.28

本校では、4月に6年生が実施した「全国学力・学習状況調査」について、学力調査と児童質問紙の結果を分析し、教職員で共有する時間を持ちました。

そこから見えてきた本校の6年生の姿と、今後の取組について、今日から2号にわたってご報告します。

全国学力調査から見えてきた子どもたちの姿

「全国学力・学習状況調査」は、子どもたち一人ひとりの学力を測って順位をつけたり、学校同士を比較したりするためのものではありません。結果を分析することで、子どもたちの学びの「よさ」と「課題」を捉え、これからの授業や教育活動の改善につなげていくためのものです。

【国語】「伝え合う力」を、さらに「読み深める力」へ

国語の結果は、全体として全国・県と概ね同程度でした。

特に、「情報と情報との関係を捉えること」や「話すこと・聞くこと」によさが見られました。本校では、子どもたちが安心して自分の考えを伝え、友だちの考えを聞きながら学びを深めることを大切にしてきました。また、板書やICTを活用し、お互いの考えを比べたり、考えを整理したりする授業にも取り組んでいます。今回の結果から、こうした取組の成果が少しずつ表れていると考えています。

一方、課題も見えてきました。一つは、学習した漢字を文の中で正しく使うことです。また、文章から目的に応じて必要な情報を見付けたり、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめたりすることにも課題が見られました。

単に「文章を読む」だけでなく、「何のために読むのか」「どこが大切なのか」「読んで自分はどう考えたのか」を意識した学習を、より大切にしていきます。

【算数】「できる」から「なぜそうなるのか」へ

算数についても、全体として全国・県と大きな差はありませんでした。

図形についての理解や計算など、基礎的な知識・技能の一部にはよさが見られました。これまで少人数での指導やICTの活用など、一人ひとりの理解の状況を大切にしながら授業改善を進めてきた成果の一つと捉えています。

一方、「測定」や「変化と関係」などの領域には課題が見られました。また、知識や技能を身に付けるだけでなく、それらを使って考えたり、自分の考えを説明したりする力をさらに伸ばしていく必要があります。

そのため、これからの授業では、問題の答えが出せることだけをゴールとせず、「どうしてそうなるのだろう」「どのように考えたのだろう」という過程を大切にしていきます。

「学力」を、これから生きる力に

これからの時代を生きていく子どもたちには、知識や技能とともに、「もっと知りたい」「できるようになりたい」と学びに向かい、自分で考え、粘り強く取り組む力が必要です。私たちは、こうした力を「学びに向かう力、人間性等」として大切にしています。

そこで大切にしたいのが、自己マネジメントする力です。

「自分は何ができて、何がまだ十分ではないのか」「今日は何を勉強するのか」「どのような方法なら自分はよく分かるのか」「やってみて、できるようになったのか」。こうしたことを自分で考え、学習の仕方を調整していく力です。

そのための大切な場の一つが、家庭学習です。

家庭学習は、学校から出された宿題を終わらせるだけの時間ではありません。漢字が十分に身に付いていないと思えば漢字を練習する。計算で間違えたところがあれば、もう一度やってみる。授業で興味をもったことをさらに調べてみる。本を読んで知らなかった世界に出会う。そうした一つひとつが、「自分の学びを自分でつくる」経験になります。

学校でも授業改善を進めます。そして、ご家庭にもぜひ、子どもが勉強している「時間」や「量」だけでなく、「今日は何を勉強するの?」「どんなことが分かるようになった?」と、学び方や成長に目を向けていただければと思います。

学校ホームページ「学校の様子」をよろしくお願いします！

学校ホームページ「学校の様子」から、いろいろな情報を発信しています。AI を使い、やさしい日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語版も添えています。「学校の様子」または「新着情報」からお入りください。



https://www.yokkaichi.ed.jp/~ohyachi/cms2/htdocs/?page_id=250

「興譲」は保護者のみなさまに Home & School で配信するとともに、地域のみなさまに向けて学校ホームページ「学校の様子」（上のリンク）でも発信しています。